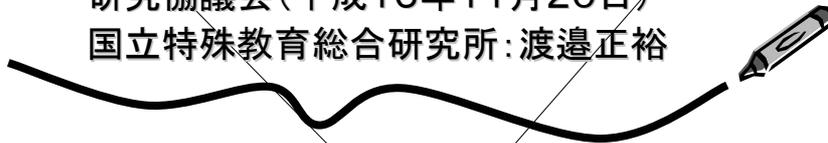


資料



一般研究課題：
Webを利用した効果的な情報
発信についての調査研究

研究協議会(平成15年11月20日)
国立特殊教育総合研究所:渡邊正裕



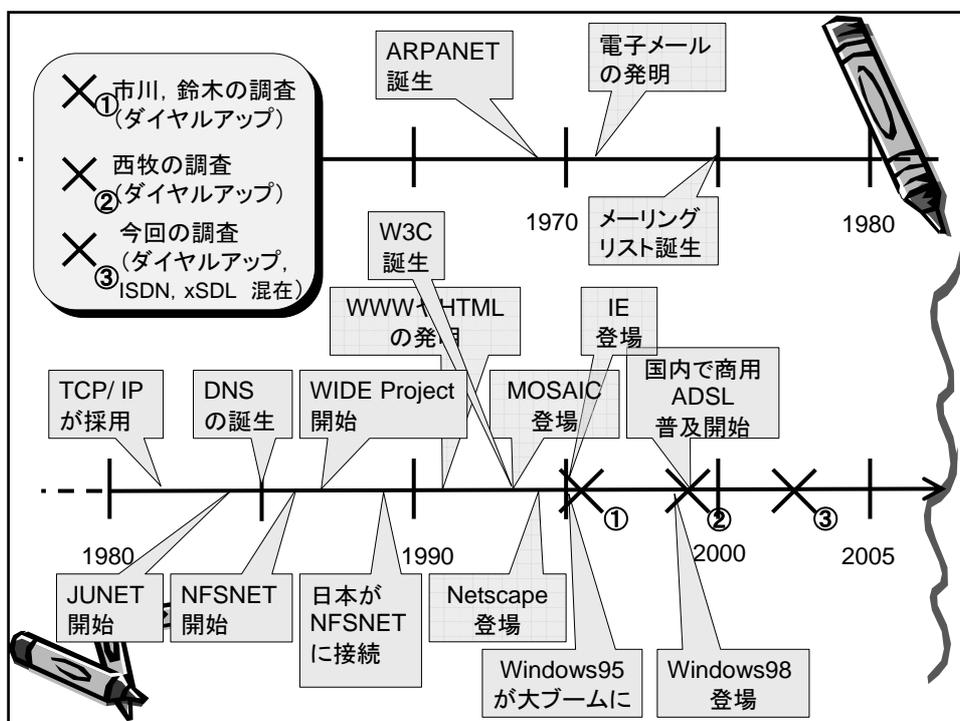
調査の目的

- 国立特殊教育総合研究所がWWWを用いて効果的な情報発信を行うために
 - 全国の特殊教育センターのWebページの発信内容等の実態を悉皆調査



我々の調査の位置づけ

- 市川らの調査
 - 「日本における小・中・高等学校WWWホームページの調査研究—黎明期における実態の把握と発信内容の分析」
日本教育工学会論文誌22(3), pp.153-165, 1998
- 西牧の調査
 - 「養護学校におけるインターネットの利用に関する研究」
国立特殊教育総合研究所長期研修成果報告書, 1999
- 我々の調査
 - 2002年~2003年
 - 対象: 特殊教育センター等(全国特殊教育センター協議会加盟機関)



調査の方法

－ 発信内容の分類については、先行研究を参考に、一次カテゴリ、二次カテゴリを決定



市川らによる分類

| 第一カテゴリ | 第二カテゴリ |
|--------|--|
| 学校紹介 | 概要、特色、挨拶、校歌、校章、沿革、教育方針、教育目標、校訓、風景 |
| 学校の内容 | 組織、施設、校内図、所在地、カリキュラム、進路、数、教職員紹介、児童生徒紹介、制服、図書、卒業生、PTA |
| 活動 | 行事、海外交流、授業実践、プロジェクト、取り組み、生活 |
| アナウンス | 案内、ニュース |
| 作品 | 作品、教材資料 |
| クラス | 学級、教材 |
| 児童生徒会 | 児童生徒会活動、委員会活動、クラブ活動 |
| プライベート | 教員、子ども、管理者 |
| 地域情報 | 地元、災害 |
| 新着情報 | ページ、ブックマーク |
| リンク | おすすめ、所属、教育関連、周辺地域、プロジェクト |
| ガイド | 教育 |
| 返信 | アンケート、掲示板 |
| その他 | |



西牧による分類



| 第一カテゴリ | 第二カテゴリ |
|--------|---|
| 学校紹介 | 概要, 特色, 挨拶, 校歌, 校章, 沿革, 教育目標, 教育方針, 重点, 校訓, 目指す生徒像, 校舎・風景 |
| 学校の内容 | 組織, 施設・設備, 校内図, 連絡先, 地図, 交通, 教育課程, 日程表, 数, 教職員紹介, 進路・卒業生, PTA |
| 活動 | 行事, 交流, 研究, 取り組み, 生活 |
| アナウンス | 案内, ニュース |
| 作品 | 作品, 教材資料 |
| 学部・学級 | 学級概要, 学習, 時間割, 児童生徒紹介, 現場実習 |
| 児童生徒会 | 児童生徒会活動, 委員会活動, クラブ活動 |
| プライベート | 教員, 子ども, 管理者 |
| 地域情報 | 地元 |
| リンク | リンク |
| ガイド | 教育 |
| 返信 | メール, アンケート, 掲示板 |
| その他 | フレームの使用, 写真処理 |

本調査研究による分類

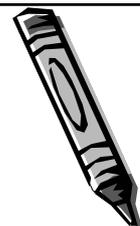


| 第一カテゴリ | 第二カテゴリ |
|--------|--|
| 学校紹介 | 概要、特色、挨拶、校歌、校章、沿革、教育方針、教育目標、校訓、風景 |
| 学校の内容 | 組織、施設、校内図、所在地、カリキュラム、進路、数、教職員紹介、児童生徒紹介、制服、図書、卒業生、PTA |
| 活動 | 行事、海外交流、授業実践、プロジェクト、取り組み、生活 |
| アナウンス | 案内、ニュース |
| 作品 | 作品、教材資料 |
| クラス | 学級、教材 |
| 児童生徒会 | 児童生徒会活動、委員会活動、クラブ活動 |
| プライベート | 教員、子ども、管理者 |
| 地域情報 | 地元、災害 |
| 新着情報 | ページ、ブックマーク |
| リンク | おすすめ、所属、教育関連、周辺地域、プロジェクト |
| ガイド | 教育 |
| 返信 | アンケート、掲示板 |
| その他 | |

調査対象機関について

<http://www.nise.go.jp/soumuka/shomu/link.html>

- 上記リンク集を参考に、各センターのWWWページを閲覧し、各サイトで発信されている内容をカテゴリに従って分類した
- サンプル数
64機関



Webページ収集

- Webページの内容を検査するのに、ページを収集することにした
 - 調査の効率化
 - 対象が日々更新され、変化するのを防止
- 当初、収集するツールとして、Adobe Acrobat 5.0 for Windows を選択した



Adobe Acrobat によるWebページ収集

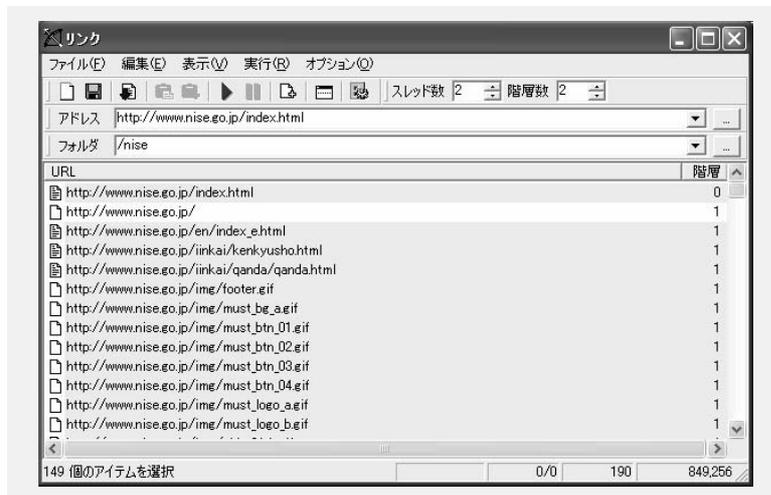


Webページ収集

- Adobe Acrobat を用いると、出力が pdf 形式のファイルとなり、扱いやすいが、大変処理が重くなってしまう
- Irvine 1.11 というダウンロードツールを用いることにした



Irvine 1.11 によるURL取得

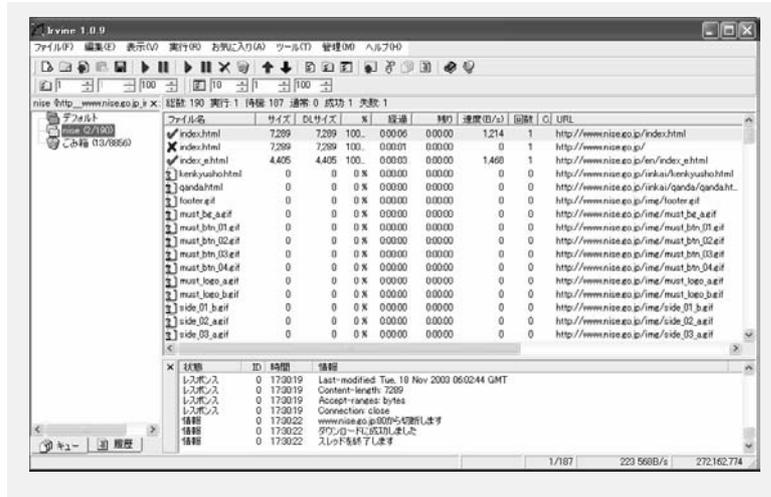


Irvine は、ファイルを実際にダウンロードする前にファイルの URL だけを取得するので、必要なファイルだけを選択できる

取得したURLの例

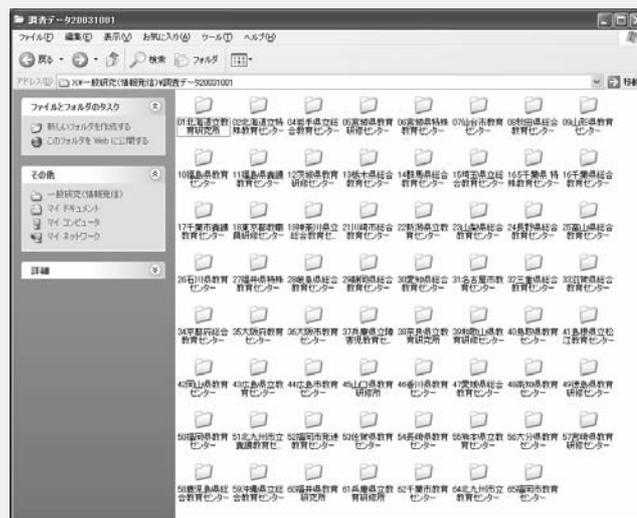
```
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/acsent.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt1.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt2.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt3.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt4.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt5.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt6.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt7.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt8.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/bt9.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/e-mail.gif  
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/img/image_1.jpg  
:  
(略)
```

Irvine 1.11 によるファイル取得



取得したURLにもとづいて、必要なファイルだけをダウンロードするので、無駄が少ない

収集したWebページのファイル



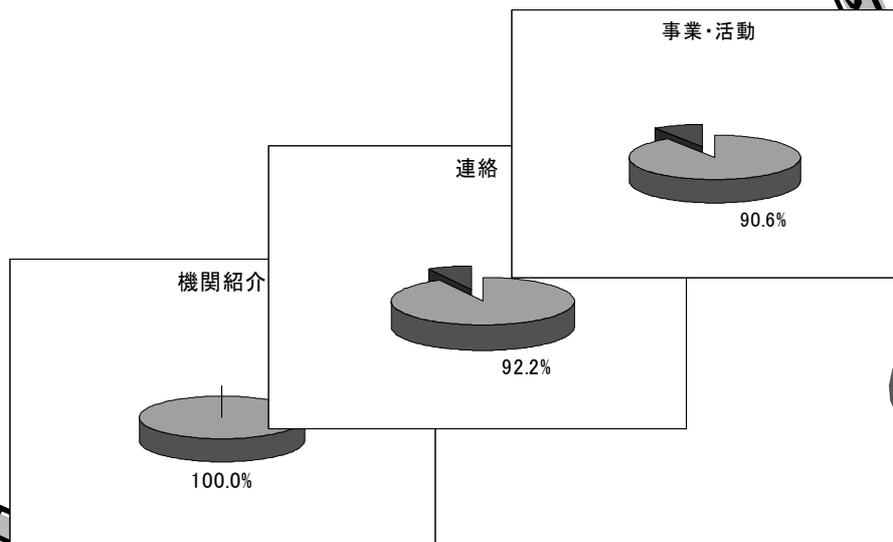
収集したファイルの総量



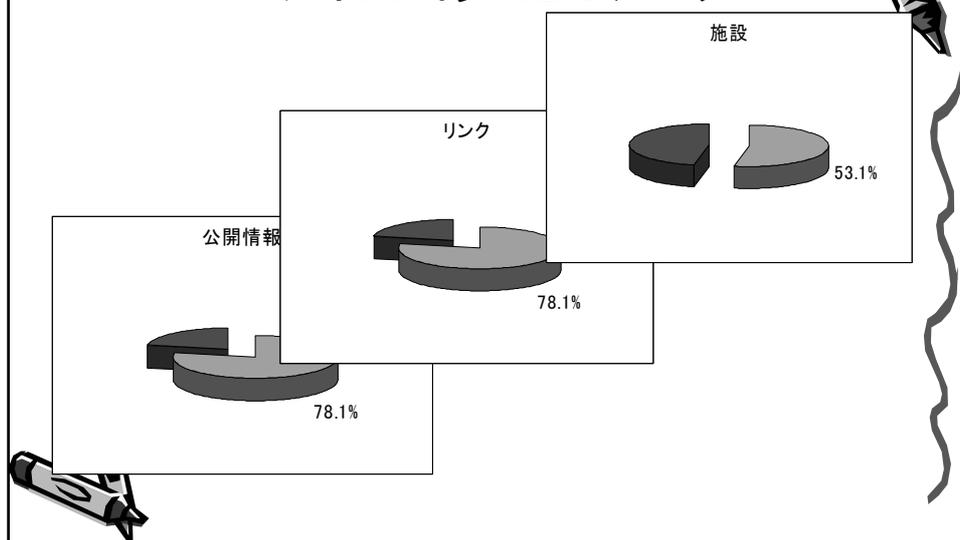
全国のセンター
のWWWページ
はこれくらいの量

約4.7Gバイト
= DVD 1枚程度

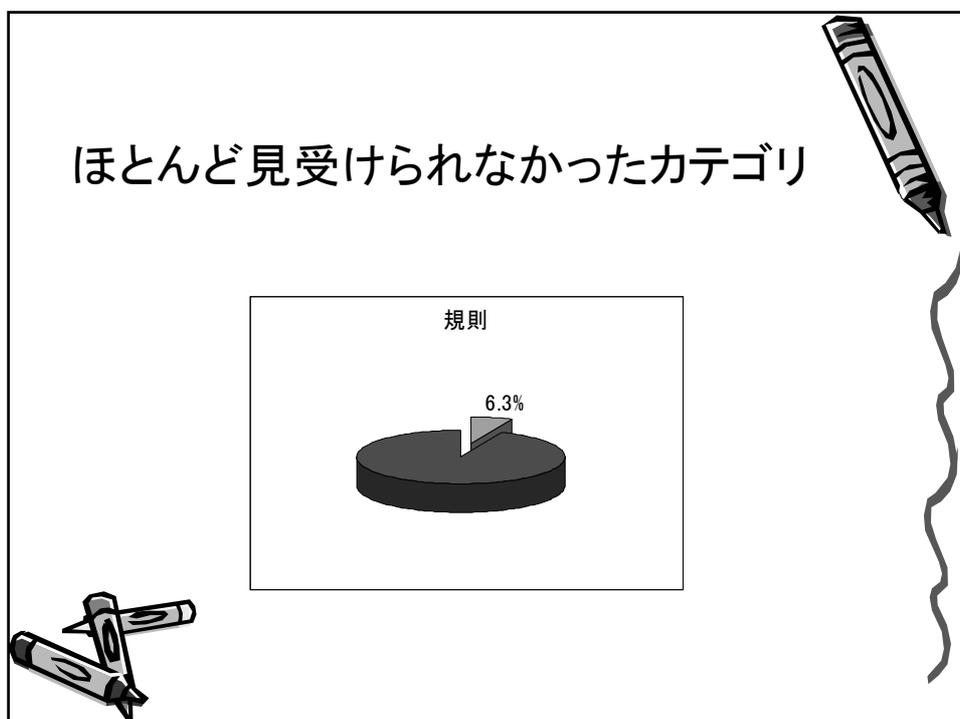
9割以上のセンターの Webサイトにあったカテゴリ



半数以上のセンターの Webサイトにあったカテゴリ



ほとんど見受けられなかったカテゴリ



調査結果の詳細は...

- 別紙のExcelの表を参照してください



調査結果：番外編

- さまざまなブラウザ(閲覧ソフトウェア)によって、Webページの見え方はかなり異なってきます

例) <http://www.kai.ed.jp/>

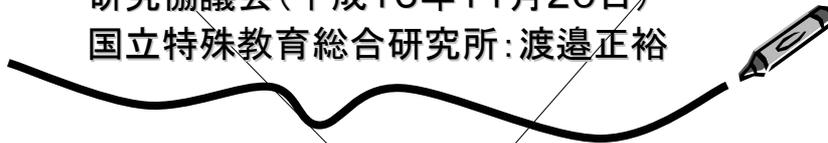
Internet Explorer と Mozilla で比較するとかなり違うことが分かり、不具合があることが分かります(...というあたりを、あとでやります)





一般研究課題：
Webを利用した効果的な情報発信
についての調査研究(番外編)

研究協議会(平成15年11月20日)
国立特殊教育総合研究所:渡邊正裕



研究部管理のサーバ

- 研究用として各種サーバ(別紙参照)を研究部で独自に用意し, 運用
- 本研究課題のメールリングリストについても, すでに研究部のメールサーバに移行する準備ができており, 現在試験運用中



メーリングリスト管理ツール



JISの話

- 情報バリアフリー関連の JIS 規格の検討が最終年度を迎えており, 素案が公開レビューになっている(あと5日間)
- 2003年10月24日(金)~2003年11月24日(祝)
- http://www.jsa.or.jp/domestic/instac/review2003/Web/itbf_web.html

WCAGの話

- <http://www.w3.org/TR/WCAG/>
- <http://www.keiyu.com/access/wcag508.htm>
- リハビリテーション法 第508条の電子・情報技術アクセシビリティ基準は、W3CのWCAG(ウェブ・コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン)1.0の優先度1を参考としていますが、いくつかの相違点があります



MIT, INRIA, KEIO版

- ・画像とアニメーション
alt属性を用いて、すべての画像などの機能を説明する。
- ・イメージマップ/クリックブルマップ
クライアントサイド・マップを用い、リンク部分には文字の説明をつける。
- ・マルチメディアコンテンツ
音声情報には字幕を、動画には画像の説明の音声をあわせて提供する。
- ・ハイパーリンク
リンク部分に記述するテキストは、単独で読み上げられた時にも正しく理解できる言葉を使う。
例えば、「ここをクリック」などの表現は避ける。
- ・ページの体裁
適切な見出し、箇条書きなど一貫性のある形で構造を利用する。
レイアウトやスタイルを整える場合には、できるだけCSSを使う。



MIT, INRIA, KEIO版

- ・グラフと図表
要約やlogdesc属性を含める。
- ・スクリプト, アプレット, プラグイン
動的な変化を表現するための機能の利用が困難あるいはサポートされていない場合があるので, 代替りのコンテンツを提供する。
- ・フレーム
NOFRAMESと意味のあるtitle属性を用いる。
- ・表
1行ずつ読み上げられたときにも内容が理解できるようにする。要約をつける。
- ・ページの確認
<http://www.w3.org/TR/WAI-WEBCONTENT/> の検証ツール, チェックリスト, ガイドラインを用いる(英語版です)。



「アクセシビリティの高い Web サイト作成のための5か条」

- ・画像には alt 属性をつけるべし
- ・トップページから深くなりすぎるべからず
- ・色のみにも頼るべからず
- ・タイトル, 段落重視すべし
- ・自分と違う環境の利用者を念頭に置くべし



各種Webアクセシビリティ チェックツール

- これまでは英語版のツールは充実していたが、日本語版のツールは少数であった
 - Personal i-Checker (IBM)
 - WebHelper (富士通)
- なぜか？



米国のリハビリテーション法508条

- 2001年6月に施行された米国の法律
- 障害者にアクセシブルでないIT機器やWebページが、連邦政府によって許されなくなった
- 企業等に対して強い影響力を持つ
- 日本では、ようやくJISがかたまりつつある



カリフォルニアにて



英語版 アクセシビリティチェックツール

- <http://bobby.watchfire.com/bobby/html/en/index.jsp> (Bobby)
- <http://www.wave.webaim.org/index.jsp>
- <http://www.cynthiasays.com/>
- <http://www.htmlhelp.com/tools/validator/>
(WDG(Web Design Group) HTML Validator)
- <http://www.cynthiasays.com/> (Cynthia Says Portal)

CSE HTML Validator

- (October 20, 2003) CSE in the Classroom:
 - CSE HTML Validator is not only a professional web development tool, it is also great educational software. Inexpensive licenses can now be obtained for classroom use.
 - <http://www.htmlvalidator.com/>
 - <http://www.htmlvalidator.com/htmlval/accessibility.html>
 - <http://www.htmlvalidator.com/htmlval/schools.html>



Tools:

- <http://www.searchengineworld.com/misc/tools.htm>
- http://www.searchengineworld.com/cgi-bin/page_size.cgi



Webを利用した効果的な情報発信についての調査研究

学校webページ運営の現状と課題 -松盲webページ運営を通して-

氏間和仁(愛媛県立松山盲学校)

1, 情報発信の前に・・・

学校がwebページを持つ意味について整理する

学校ホームページの革新性

- 1, 学校判断で情報発信できる
- 2, 情報の公開、共有の強い動機付けになる
- 3, 経済的で効果的である
- 4, 情報を電子的に蓄積する機能に長けている

1. 情報発信の前に・・・

学校ホームページの意義

保護者のニーズ

- ・我が子がどんな活動をしているのか知りたい。
- ・学校では今何をやっているのか伝えて欲しい。

地域のニーズ

- ・学校の教育方針・教育活動を伝えて欲しい。

保護者・地域と信頼関係を築く

保護者・地域の協力

充実した教育活動

豊福晋平, NEW教育とコンピュータ,(2003/12月号)より

1. 情報発信の前に・・・

作成側のシステムの
問 題

コンテンツ自体の
問 題

解

消

効果的な情報発信

2, 作成側のシステムの問題

学校ホームページ運営上の問題

- 1, 負担の偏り
- 2, ホームページが認知されにくい
- 3, 管理の手段、組織が不十分
- 4, 足を引っ張られる
- 5, 規則のみが先走りする

豊福晋平, NEW教育とコンピュータ,(2003/12月号)より

2, 作成側のシステムの問題

- (1) 負担の偏りの是正
- (2) ホームページが認知される取組
- (3) 管理の手段、組織の整備
- (4) 全校協力体制の構築
- (5) 規則の運用

2. 作成側のシステムの問題

(1) 負担の偏りの是正

分掌にwebページを分担

| | |
|-------|-------------------|
| 教 務 課 | 教育課程のページ・教育目標のページ |
| 総 務 課 | 行事のページ |
| 教育相談 | 教育相談、サマースクールのページ |
| 自立活動 | 視覚障害教育の概要のページ |
| 各 学 部 | 各学部のページ |
| 理 療 科 | あはき師養成のページ、国試のページ |

2. 作成側のシステムの問題

(1) 負担の偏りの是正

分掌にwebページを分担

長 所

- 多くの職員が意識をもてる。
- 各部署の情報が有効に活用できる。
- 作成者の負担が軽減できる。

問 題 点

- レイアウトの統一が取りにくい。
- 更新の要請がしにくい。
- 決裁を取るのが煩雑になる。

2. 作成側のシステムの問題

(2) ホームページが認識される取組

- 教員研修の実施
- チラシの作成、掲示、配布
- 学校の封筒への印刷(次期印刷より)

課題

- 保護者への啓発が不十分

2. 作成側のシステムの問題

(3) 管理の手段、組織の整備

• 情報教育委員会の設置

校長、教頭、事務長

情報教育課長、情報教育課員

総務課長、図書課長

情報科教員

• 更新手順

ページ作成 ▶ 印刷 ▶ 決裁 ▶ 掲載

2. 作成側のシステムの問題

(3) 管理の手段、組織の整備

・情報教育委員会の設置

長 所

- 管理職までメンバーに含まれているので、意思の決定がしやすい。
- 横断的な役職が関わっているので意思の統一を図りやすい。

問 題 点

- 年に3回しか開かないので、対応に時間を要する。

2. 作成側のシステムの問題

(3) 管理の手段、組織の整備

・更新手順

長 所

- 責任の所在がはっきりする。
- 修正箇所が確認しやすい。
- 更新の履歴を残せる。

問 題 点

- 印刷物で決裁をとる不自然さ。

2. 作成側のシステムの問題

(4) 全校協力体制の構築

・ITに慣れ親しむための研修

| | | |
|-----|--------|------------------|
| 4月 | 新転任者研修 | ネットの利用、視覚障害とIT |
| | 教材作成研修 | 点訳、拡大教材作成 |
| 夏休み | 各種研修 | 全32回 |
| 11月 | 行事管理研修 | 行事管理システムデータ管理者研修 |
| 12月 | 補償機器研修 | CCTV、ブレイルメモ研修 |

2. 作成側のシステムの問題

夏休み中のIT講習

| | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------------|
| 7月22日 | Excel応用編(表とデータベース) | 8月8日 | Excelで表とグラフを作ろう! |
| 7月23日 | Excel応用編(関数の活用) | 8月8日 | HTML教材作成③ |
| 7月24日 | Excel応用編(様々なグラフ) | 8月11日 | ホームページでいろいろ調べよう! |
| 7月25日 | ファイル管理の達人 | 8月18日 | OutlookExpressの基本操作 |
| 7月28日 | ネットワーク犯罪対策講習会 | 8月19日 | 点訳ソフトの操作方法 |
| 7月29日 | 各教室でVideoを見よう! | 8月19日 | ホームページでいろいろ調べよう! |
| 7月29日 | Wordで見栄えのよい文書を作ろう!① | 8月21日 | パワーポイントで教材作成①～動く紙芝居を作ろう～ |
| 7月31日 | 弱視のコンピュータ利用のコツ | 8月21日 | メールを活用しよう!① |
| 7月31日 | Wordで見栄えのよい文書を作ろう!① | 8月22日 | パワーポイントで教材作成②～〇×教材を作ろう～ |
| 8月4日 | OCR活用術 | 8月22日 | メールを活用しよう!② |
| 8月4日 | Wordで見栄えのよい文書を作ろう!② | 8月25日 | ファイル管理の達人 |
| 8月5日 | 「IT授業」実践ナビ」を活用しよう | 8月25日 | PTA対象IT実習(初級編) |
| 8月5日 | Excelで表とグラフを作ろう! | 8月26日 | PTA対象IT実習(中級編) |
| 8月6日 | HTML教材作成① | 8月26日 | メールを活用しよう!② |
| 8月6日 | メールを活用しよう!① | 8月27日 | 地域住民対象IT実習(初級編) |
| 8月7日 | HTML教材作成② | 8月28日 | 地域住民対象IT実習(中級編) |

2. 作成側のシステムの問題

(3) 管理の手段、組織の整備

- ITに慣れ親しむための研修

長 所

- 様々な教員のニーズに応えることができる。
- ITの理解・普及が促進される。

問 題 点

- 情報教育課員の負担

2. 作成側のシステムの問題

(5) 規則の運用

- Esnetの運用規則

長 所

- 各学校の事情に応じた運用が可能である。
- 自由に更新できる。

問 題 点

- 各学校の責任の重さが増す。

3, コンテンツ自体の問題

「アクセシビリティの高い Web サイト作成のための5か条」(渡邊改変版)

- ・画像には alt 属性をつけるべし
- ・トップページから深くなりすぎるべからず
- ・色のみを頼るべからず
- ・タイトル, 段落重視すべし
- ・自分と違う環境の利用者を念頭に置くべし

3, コンテンツ自体の問題

- ・画像には alt 属性をつけるべし

情報として意味のある画像・写真については必須(担当者で付加)

デザイン的な物についてはその都度対応

- ・トップページから深くなりすぎるべからず

4から5階層までに制限

各ページにホームページへのリンクを設定

- ・色のみを頼るべからず

枠、線、インデント、文字サイズなどでも表現

3. コンテンツ自体の問題

・タイトル, 段落重視すべし

タイトルの適切な設定、少々長くても正確に表現
無用な
タグの削除
<h1><h2>……の適切な設定

・自分と違う環境の利用者を念頭に置くべし

ブラウザ: Netscape、Macintosh IE
音声環境: VDM

にてチェック

・その他

アンカー文字の適切な設定(Where症候群の防止)
画像サイズはなるべく小さく

4. IT化を成功させるために

成功要因(小松, 2003)

(1) ビジネスモデル

目的(新聞、拠点、アーカイブ)を明確に
作業課程を適切に

(2) 協業

各部署の協力

(3) トップサポート

管理職の理解を得る

効果的な情報発信

小松秀園, “eラーニングの戦略的活用と活用のための戦術”, 教育システム情報学会誌, 20(2), 61-65, 2003.

高等教育機関における障害をもつ学生に対するメディア・IT活用実態調査 2001年度概要

メディア教育開発センター

現在、日本では18歳人口の減少、国際化、生涯教育の需要の増大などがあいまって大学の变革が早急に求められている。中でも学術研究や教育におけるIT環境の整備とともに、留学生、社会人など多様な学生を受け入れるシステム作りが大学生生き残りの大きな鍵となっている。2002年1月にNIMEでは、全国の高等教育機関（大学667校、短大537校、高等専門学校62校）合計1266校に対して障害学生とIT環境に関する郵送アンケート調査を行い、回収率は大学66%、短大60%、高専81%であった。この調査の結果を掲載し、日本の高等教育とIT環境の現在について考察をしたい。

尚、本調査では、「障害をもつ学生」とは、運動障害、聴覚障害、視覚障害、色覚障害、健康障害、言語障害等をもつことと規定した。学習障害は含まれていない。

1.調査の回収状況

2002年1月に全国の高等教育機関（大学本部、大学学部・研究科、短大、高専）に対して実施した第1回アンケート調査の回収状況は表1のとおりである。

| | 配布数 | 有効回収数 | 回収率(%) |
|----------|-------|-------|--------|
| 大学本部 | 667 | 437 | 65.50% |
| 大学学部・研究科 | 1,750 | 910 | 52.00% |
| 短大 | 537 | 323 | 60.10% |
| 高専 | 62 | 50 | 80.60% |
| 合計 | 3016 | 1720 | 57.00% |

2.高等教育における障害をもつ学生

障害をもつ学生の在籍する高等教育機関は、大学66%、短大36%、高専34%である。ただし、障害を申告していない学生もあり、個々の大学によって実情はかなり異なっていると思われる。

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|---------|------|------|------|
| 在籍している | 66.0 | 35.8 | 34.0 |
| 在籍していない | 24.5 | 46.4 | 48.0 |
| 以前はしていた | 9.5 | 17.8 | 18.0 |

3.障害者に対するサービス

障害者に対する支援や相談窓口のついて、「ある」と答えたのは、大学31%、短大19%、高専16%である。障害をもつ学生に対する学内委員会を設置しているのは、大学10%、短大4%、高専4%である。障害をもつ学生の入学を契機に窓口の設置等、現場の対応策は生まれつつあるものの、米国、カナダ、豪州のように法律によって障害者の学習権が確立されていないために、日本では受け入れがシステムとして積み重ねられ制度化して行きにくいのが実情である。

成文化された規定の有無

成文化された規定のある大学は437校中25校、短大323校中8校、高専50校中1校であり、全体の比率は下記のとおりである。

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|----|------|------|------|
| ある | 5.9 | 2.5 | 2.0 |
| ない | 94.1 | 97.5 | 98.0 |

学内委員会の設置

設置している大学は42校、短大12校、高専2校であり、比率は下記のとおりである。三機関のうち大学が一番高いが、それでも10%に満たない。

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|---------|------|------|------|
| 設置している | 9.9 | 3.7 | 4.1 |
| 設置していない | 86.1 | 92.2 | 91.8 |
| 設置を検討中 | 4.0 | 4.1 | 4.1 |

支援や相談窓口の設置

設置している大学は130校、短大60校、高専8校であり、比率は下記のとおりである。これは30%の大学が設置しているが、学生課や教務課の中での兼務が多く、独立した窓口として緊密な対応がなされているかは不明である。

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|---------|------|------|------|
| 設置している | 30.9 | 18.8 | 16.3 |
| 設置していない | 60.8 | 74.6 | 79.6 |
| 設置を検討中 | 4.8 | 5.0 | 2.0 |
| その他 | 3.6 | 1.6 | 2.0 |

[実施されているサービス]

ノートテイク、手話通訳、朗読の有無

(校)

| | 大学本部 | 短 大 | 高 専 | 合 計 |
|-----------------|------|-----|-----|-----|
| 1. 学生有志に依頼 | 85 | 44 | 0 | 129 |
| 2. 学外のサービス機関に依頼 | 37 | 15 | 2 | 54 |
| 3. 依頼していない | 315 | 262 | 47 | 624 |

教職員への指導の有無

(校)

| | 大学本部 | 短 大 | 高 専 | 合 計 |
|-----------|------|-----|-----|-----|
| 1. 行っている | 189 | 114 | 11 | 314 |
| 2. 行っていない | 231 | 204 | 38 | 473 |

比率で表すと

(%)

| | 大学本部 | 短 大 | 高 専 |
|-----------|------|------|------|
| 1. 行っている | 45.0 | 35.8 | 22.4 |
| 2. 行っていない | 55.0 | 64.2 | 77.6 |

行っている内容

(校)

| | 大学本部 | 短 大 | 高 専 | 合 計 |
|--------------|------|-----|-----|-----|
| 1. 個別の指導 | 156 | 102 | 9 | 267 |
| 2. F D 研修 | 2 | 2 | 0 | 4 |
| 3. 冊子配布 | 11 | 5 | 1 | 17 |
| 4. W e b に記載 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 5. その他 | 34 | 15 | 3 | 52 |

障害をもつ学生に接する教職員への教育は進められてはいるが、個々の努力に負う面がまだ多いのが現状である。

[TOP](#)

4. 学内IT環境整備と障害者

授業や講義に関する一般的なシラバスや関連情報をWebに掲載しているか、という問いには、すべてを掲載しているのは、大学19%、短大7%、高専20%、かなり掲載しているが大学13%、短大4%、高専8%、半分程度が大学4%、短大2%、高専4%である。まったく掲載していないのが、大学37%、短大65%、高専30%である。ウェブページが障害者にアクセシブルなデザインの配慮をしているか、という問いには、大学、短大、高専ともに約70%が、配慮をしていないと回答している。障害をもつ学生への支援情報をウェブページに掲載しているかについては、大学1.5%、短大1%、高専0%である。

圧倒的な量と質を誇る米国・オーストラリア・カナダ・英国の高等教育機関のウェブページは、ほとんどの場合障害者にアクセシブルなデザインの配慮がなされ、それを認定するマークが記されている。日本の高等教育機関のウェブ情報の貧弱さは、多様な学生の受け入れや、研究や授業の改善にIT活用が唱えられているにも関わらず、機関側がいまだに本気になってIT活用に本腰を入れていないことが見てとれる。

支援情報のHPへの掲載

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|---------|------|------|-----|
| 掲載している | 1.5 | 1.0 | 0 |
| 掲載していない | 98.5 | 99.0 | 100 |

視聴覚障害者が読みやすいデザインの配慮

(校)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 | 合計 |
|---------------------|------|-----|----|-----|
| 1.音声読み上げソフトで読みやすい工夫 | 9 | 5 | 0 | 14 |
| 2.ページタイトルの適切な記載 | 37 | 28 | 2 | 67 |
| 3.写真や画像にオルト属性の設定 | 28 | 16 | 1 | 45 |
| 4.色のコントラストの配慮 | 13 | 6 | 1 | 20 |
| 5.特にしていない | 302 | 229 | 35 | 566 |

講義のシラバスや関連情報のWeb記載

(校)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 | 合計 |
|------------|------|-----|----|-----|
| すべて掲載している | 153 | 21 | 10 | 184 |
| かなり掲載している | 107 | 14 | 4 | 125 |
| 半分程度掲載している | 31 | 6 | 2 | 39 |
| 少し掲載している | 225 | 69 | 19 | 313 |
| 掲載していない | 308 | 207 | 15 | 530 |

比率で表すと

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|------------|------|------|------|
| すべて掲載している | 18.6 | 6.6 | 20.0 |
| かなり掲載している | 13.0 | 4.4 | 8.0 |
| 半分程度掲載している | 3.8 | 1.9 | 4.0 |
| 少し掲載している | 27.3 | 21.8 | 38.0 |
| 掲載していない | 37.4 | 65.3 | 30.0 |

教職員のメールアドレスの学生への開示率

(%)

| | 大学本部 | 短大 | 高専 |
|---------|------|------|------|
| 開示している | 44.4 | 27.5 | 44.0 |
| 開示していない | 53.6 | 72.5 | 56.0 |
| その他 | 1.9 | 0 | 0 |

NIMEは1997年に日本の視覚・聴覚障害をもつ学生の約30%をカバーした「障害者の高等教育とメディア・アクセスの研究」調査を行った。そこでは、メディア技術をいち早く享受する能力と意欲を持つ学生とは、従来の高等教育システムでは疎外され続けてきた障害者に他ならないという結論が導き出された。高等教育において障害が重ければ重いほど学生のメディア活用能力は高く、それぞれのニーズにあった活用をしている。今後の高等教育、生涯学習の変革、メディア教育の推進にとって、障害者へのメディア支援は単に弱者救済という概念を越えて、学生個人個人のニーズにあった学習支援を築く上での先鞭を切るモデルとなり得ると確信している。各機関は早急に多様な学生の立場からIT環境整備を再度検討する必要がある。

[TOP](#)

[NIME HOME](#)

メディア教育開発センター制作(2003年7月7日販売)

ビデオ教材 (字幕付き)

『USA発 高等教育のバリアフリー』



VHS 31分
価格:14,000円

世界で最も進んでいるといわれる米国の高等教育における障害者支援を紹介するために、オレゴン州の大学やコミュニティカレッジを中心に、障害者支援局の役割を31分のビデオ教材にまとめました。ここで描かれている大学風景は、米国の中で特別なものではありませんが、きっと日本との違いに驚かれるでしょう。ビデオには支援局のスタッフをはじめ、実際に支援をうけている学生や自治体関係者などの豊富なインタビューや具体的な支援風景が盛り込まれています。障害者支援をとおして、ジェンダー、人種、社会階層など米国社会の人権への配慮や開かれた大学の姿が浮かび上がってきます。大学において学生、教員、職員が、障害をもつ学生に対しての支援構築の一助として、是非備えてほしいビデオです。

このビデオの利用法

- 全国の国公私立の大学、短大、高専、専門学校、教職員の方々、および一般学生が障害者に対して理解を深めるために。
- 障害児教育・障害者福祉・リハビリテーション・教育工学・福祉工学等の教育教材。
- 字幕付きなので聴覚障害の方もご覧になれます。

*お問合せはこちら

企画・制作:メディア教育開発センター
メディア教材開発事業

制作担当: 広瀬洋子(メディア教育開発センター)
高津直己(メディア教育開発センター)

制作協力: (株)NHKエデュケーショナル

制作・著作: メディア教育開発センター

(発行)放送大学教育振興会 (業務部)
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-14-1 琴平ビル
TEL03-3502-2750(代) FAX3592-2482
Eメール spua@ua-book.or.jp

(制作)メディア教育開発センター事業部教材制作課
〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉2-12
TEL 043-298-3125 FAX 043-298-3478

(発売)丸善(株)出版事業部(担当平野)
〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-1C
TEL03-3272-3521 FAX03-3272-0675